



祝 今年度 修了！  
 体も心も大きくなったね。新しい春がくるよ。

あいみ, 泰陽, 芽衣, みらい, いってらっしやい♪



## おひさまミーティング

今年度の集金袋の中に、予定時刻をお知らせしたお便りが入っています。ご覧ください。お時間とっていただき、ありがとうございます。



4月8日(金) はじまりの会♪

9:00～ ミーティング、そうじ&はじまりの会準備  
 10:00～ 優、さくら、生美、3名を迎えるはじまりの会♪  
 (参加できる方は、ぜひ一緒に！)  
 12:00～ おひるごはん  
 (持ち寄り1品 もしくはてらこやで作る)  
 ～15:30 いつものてらこや

\*はじまりの会の昼食は、子どもたちの案で、今年はどちらかを選ぶことになりました。（「自分が家で作った料理を持ち寄る」もしくは「てらこやで作る」）

持ち寄りの方へ

品数が多くなるので、量としては、ひとり一口食べられる程度でかまいません。どうぞよろしくお願いします。(約40人)

来年度は・・・

神奈川から新1年生の優、おうちえんからさくら、弥八の妹新2年生の生美が加わり、来年度も19名のてらこやです。

4月7日(木)

新2～6年生 新年度スタート☆

通常通り 9時～15時半

## 1 年間を振り返って

みんなの3学期&1年間を振り返る「3学期〇〇新聞」からシェア！ てらこやキッズの今をお届けします。

うめみずづくりをめめとみとと  
まあみんでつくってあいみか  
おいしかった。えんえいおうふく  
3kmをおよいで わきか  
いたくなった。 海土

右田ヶ岳をのぼっていの  
さきほにのって たのしかった **新**

えんちゃで"あるくのか"  
つかれた。まへのひとか"  
はやかたからつかれた。  
(つはめ)

パンづくりがたのしかったです。  
やくときみとくとき  
おもしろかった。(緑太)

田んぼのうねをつくることからやって  
うえるときもやって、さいごよりかとおぼたいて  
うまくいってよかった。百人一首大会でめめたい  
ちさきとちさで たたかかって きいろで たたかかって  
ちさきとちさの ほうが かって うれしかった。  
みがうらで まつばがいかで かいの がいらはい ちさ  
ていはいとれてうれしかった。(中略)

旅立ちの日に寄せて・・・

まあみんな

旅立ちの会の次の日。1～5年生で過ごした日。ミーティングは意見が活発に出て、とっても楽しそうなのだけど、なんだかガチャガチャ（笑）。ふっくんが鬼滅の刃に引っかけて、「柱がいない。柱がいないとただ刀を振り回しているやんちゃ坊主」とみんなに表現してくれていたけれど、まさにそんなかんじ。ふわふわ飛んでいっちゃいそう。毎年年度初めってこんな感覚だったなあということを思い出す。あゝ、泰陽、芽衣。愛しい6年生。3人とも表だってみんなを引っ張っていくタイプではなかったけれど、確実に柱として存在してくれていたね。在り方でみんなの軸となる、まさにこれからの時代の真のリーダーの姿。

たくさんの方の愛に満ちた旅立ちの会が終わって3日。まだその雰囲気から抜け出さない自分がいる。3人がいないぽっかりした心の穴と淋しさ。旅立ちのうれし

さ、みんなの愛の幸せな気持ちでぐるぐる入りまじる。2016年4月。てらこや1年目に入学した3人。初めて1年生から6年間ここで育ちきっただいすきな3人。その成長が眩しくて、だめだ、こうして書いていても涙ぐむ。

今年度は風のような1年だった。てらこやの土台がよりしっかり根付いた1年。最後のほこりをみんなでもふるい落とし、より深くつながれた1年。しずかで穏やかに素直で、みんなを包み込むタイプ、でも芯は熱く燃え、揺るがない自分がある3人が創った時代だ。

今年の旅立ちの会はこれまでの卒業生がたくさん来てくれた。6年生とともに長い時間を過ごしたOB  
 がお祝いに駆けつけてくれる。こんなにうれしいことはない。てらこやの過去と現在が一気につながる。  
 そして大きな家族になっているのが実感できてまた涙ぐむ。見たかった未来が今ここにある。

それぞれの時代が紡いできたものがある。1期生と2期生はパワーに溢れ、嵐を航海し、ゼロから土台を建ちあげた。3期生はその土台のとげを削り、まわりに花を植え、温かい風を吹かせた。そして今年度4期目。ひかりの言葉を借りれば、「芽衣ちゃんたちがさらに紙やすりで磨いてくれた」うん、たしかに。さらになめらかに磨き上げ、木々や花を大きくし、鳥や虫たちを招いてくれたね。

3人の歌に感動して泣いていた横にいた愛梨も泣いていたんだ。やっぱりてらこやは、わたしがわたしでいられる場所だったよ。わたしはとっもしあわせな小学校時代を送ったよ。ひかりの言葉にまた泣ける。

今はただ、この淋しさとあったかいしあわせな感覚と春の空気に身を浸そう。ありがとう。いつてらっしゃい♪



# てらこや 三十八の瞳♪・・・こんな3月だったよの巻

## 3月21日(月) 旅立ちの会



みんな、お母さんたちから桜もちのプレゼント。おいしかった。  
みんなでお祝い。みんなが歌った。中学生(卒業生)もいっぱい。  
みんなでお祝い。みんなが歌った。中学生(卒業生)もいっぱい。  
みんなでお祝い。みんなが歌った。中学生(卒業生)もいっぱい。

ありがとう。いて。らしい。



みんなでお祝い。みんなが歌った。中学生(卒業生)もいっぱい。  
お母さんたちから歌のプレゼント。銀河鉄道999

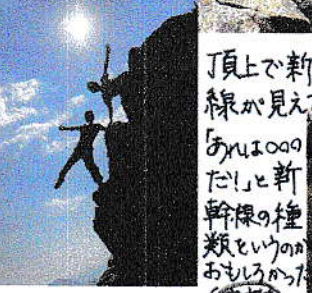


みんなでお祝い。みんなが歌った。中学生(卒業生)もいっぱい。  
みんなでお祝い。みんなが歌った。中学生(卒業生)もいっぱい。



旅立つ6年生のサプライズ。3人でアパで旅立ちの日。  
6年生の歌声がとってもきれいだった。(陽里)  
みんなの声がきれいだった。いつの間に練習したのかと思った。(豊生)

## 3月8日(火) 右田ヶ岳



頂上で新幹線が見えた。おめでとう。新幹線の種類というのがある。(大樹)

3月5日(土) ついまた消防署。



ふくんが持ってきた。カウンター「9999」まで指と動かす。男子たち。

## 3月10日(木) 銀河



3月はみんなからのプランが。たくさん出まげ!!



3月11日(金) ヒササパー。ヒササがおいしかった。焼くのかむすかした。(ちさき)



りかさんの英語クラブ。毎回楽しい声かけ。

6年生は前日から泊まらず、当日の昼食と準備。たきいり飯。すまし汁。豆乳のアート。みんなにふるまってくれました。

## 3月15日(火) チンチンラーメン



チムでは負け。個人戦では大差で勝つ。うれしかった。(りか)



3月3日(木) おうちゃんのコーヒーばいせん。



耳をすまして豆がはいける音をみんなで聞きます。

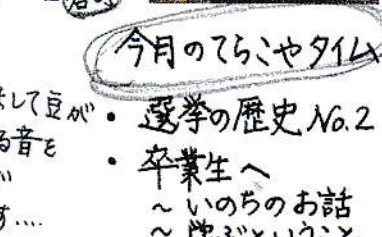
## 3月14日(月) あつお杯百人一首大会No.2



百人一首クラブ。打ち上げはおす。



「夢み」に「い」で。てらこやで。お寿司を食べられる。なんて... (啓司)



今月のてらこやタイム。

あつおからひりひりに卒業証書。ひりひり、その人にプレゼントする。と。書いています。どんなに。が贈られるか。みんな。わくわく。

案外思ったより近から。自転車が。ふらふら。の。最後で。よかった。(秀次)

チムでは負け。個人戦では大差で勝つ。うれしかった。(りか)

百人一首クラブ。打ち上げはおす。

「夢み」に「い」で。てらこやで。お寿司を食べられる。なんて... (啓司)

今月のてらこやタイム。

選挙の歴史No.2。卒業生へ。いのちのお話。学ぶということ。大掃除。1年間をふりかえって。

選挙の歴史No.2。卒業生へ。いのちのお話。学ぶということ。大掃除。1年間をふりかえって。

## 襪 (たすき)

会沢碧来

今年の桜が全国で産声をあげはじめた。  
自然はただ巡り続ける。  
変化し続ける場所で、芽は育ち、花は咲く。

1年間の研修を終えて  
お世話になったみなさまに  
感謝の気持ちを込めて

春は旅立ちの季節。  
3人の6年生が温かな巣を後にして、旅立っていった。

4月から高校生に戻るみらい、  
みんなで応援してるよ♪

その日の3人の姿は、会に集まった人1人1人の優しく、力強い風を受けて、自らの旅立ちをゆっくりと受け入れているようだった。

会の中で見せた6年生の頬を伝う涙は、それぞれがてらこやですごしてきた時間の全てを表していると感じた。

会に参加する人の中にはかつての卒業生の姿もあった。  
長い時間を一緒に過ごした後輩を見送る卒業生たちの眼差しは、家族そのものだったように思う。

会が終わった後、卒業生の1人であるひかりとあつんとまーみんが3人で話していた。

中学校に行ってからてらこやをふりかえった時に感じるこ、今年の卒業生のこ、てらこやという場に対する思いなどを語り合う3人の姿。

3人の話していた横顔を今も忘れられない。

その輪の中には、春を思わせるほどうららかな時間が流れていたように僕には思えた。

僕はその時、てらこやという1つの場が卒業生たちの"居場所"になっているのだと強く感じた。

それはただの場所ではない。  
"ずっと心に残り続ける場所"  
"自分の軸の中心を流れ続ける場所"  
"どんな時も心の支えとなる場所"なのだ。

そんなてらこやという場所は"生きている"  
そして、これからはそんな場所が大切になっていくのだと感じた。

"過去と今と未来が繋がる時間"

それが"旅立ち"であるのだと感じた1日だった。

てらこやという場の歴史は繋がれている。

それぞれの代が違う色合いで真っ白だったキャンパスに色を塗り重ねてきた。

子が親の背中を見て育つように、てらこやの文化も綿々とその色を変えながら受け継がれていく。

この1年間、本当に沢山のこを学ばさせていただいた。

感謝の気持ちでいっぱいだ。

ここに来るといふ決断をした過去の僕が繋いだ襪がここで巡り合えたえたモノに出逢わせてくれた。

世界は毎日生まれ変わる。

昨日とは違う今日を、人生で1日だけしかない絶対的な今日を、僕たちはまた繋いでいく。

残されたてらこやの子たち、  
てらこやの襪は渡された。  
ゴールはない。  
ただ1人1人が自分らしく一歩を踏み出し、毎日を繋いでいくだけだ。

今度はみんなの番だ。

そして、今日という日を生きていく僕の番だ。

